

## 第5章 目指すべき将来像

中津市は、海、川、山の自然に恵まれ、それぞれの地形の中に多種多様な歴史文化資源があります。広大な山間部である耶馬溪には国名勝に指定された66景のうち、49景が所在します。台地上では古代の遺構が町の中に生き、県内最多の中近世城館が市域全体に分布します。河口部には中津城下町の面影が残り、干潟には希少生物が生息しています。これらは、後の世に伝えようと過去の人たちがつないでくれた「なかつの宝」です。市民はふるさとの歴史文化を大切に思い、歴史文化に触れる環境を望みながらも、過疎化による担い手不足に不安を感じています。しかし、そのような中でも、「未来に伝える活動に関わりたい、中津市の良さを知ってほしい、自らが伝える場に立ちたい」という強い思いを持つ人々がいます。中津市独自の歴史文化は、中津市の個性であり、魅力であり、強味です。市の発展と歴史文化資源の保護は、相反するものではありません。世界に2つとない「なかつの宝」を柱にしたまちづくりは、中津市のブランド力を高めます。生まれ育った人たちが「誇りをもてるまち」は「帰ってきたいまち」であり、市外の人にとって「魅力的なまち」となり、市民の自信と誇りを生み、生涯暮らし続けたいまちへとつながります。中津市を輝かせてくれる歴史文化資源は「なかつの宝」なのです。

そこで本計画では、中津市の目指すべき将来像を

### 「なかつの宝でなかつが輝く ー歴史文化資源をつなぐまちづくりー」

とします。

まず「なかつの宝」の価値を知り、市内外の人たちでその価値を共有します。そして「なかつの宝」を保護し未来へ伝える取組みを推進します。さらに「なかつの宝」を磨き魅力的なまちづくりを推進することで、「中津で暮らしたい。中津を応援したい。」人を増やし、「なかつの宝」を未来へ伝える好循環を生み出します。この考えのもと、次の3つの方向性にそって、輝く「なかつ」を目指します。3つの方向性はそれぞれに連動しています。

#### 方向性1. 「なかつの宝」を知り、みんなで価値を共有する

中津市を輝かせる宝にはどのようなものがあるのか調査を進めます。調査の成果を共有できる仕組みをつくり、市内外の人が「なかつの宝」とつながる機会を創出します。

**基本方針1 歴史文化資源の把握の推進**

**基本方針2 情報発信と価値の共有化**

## 方向性2. 「なかつの宝」を守り、未来へつなぐ仕組みをつくる

先人たちから宝を受け継ぎ、輝く未来へとつなぐのは私たちの務めです。「なかつの宝」の保存・整備を適切に行うとともに、災害から宝を守るための対策と体制を構築します。

基本方針3 適切な保存整備の推進

基本方針4 保護する仕組みの構築と強化

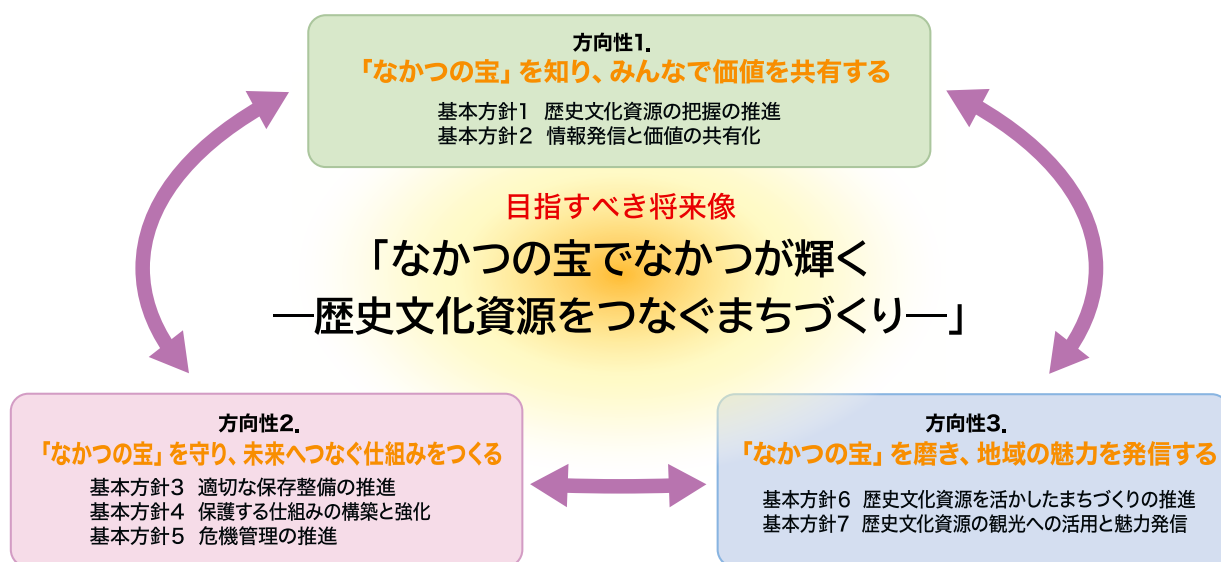
基本方針5 危機管理の推進

## 方向性3. 「なかつの宝」を磨き、地域の魅力を発信する

「なかつの宝」は人々をつなぐ力となり、地域コミュニティの活性化を生みます。「なかつの宝」を磨き、まちづくりとつなげることで、輝く「なかつ」をつくります。

基本方針6 歴史文化資源を活かしたまちづくりの推進

基本方針7 歴史文化資源の観光への活用と魅力発信



《図16：中津市における目指すべき将来像と方向性の体系》